

母体と赤ちゃんを守るママの RS ウィルスワクチン (母子免疫ワクチン)について

母体と赤ちゃんを守る、RS ウィルスワクチン(アブリスボ®)の定期接種が 2026 年 4 月より開始されます。

赤ちゃんは生後数か月はお母さんの免疫で守られていると言われていますが、具体的には『免疫グロブリン』という免疫分子が胎盤を介して移行し、赤ちゃんの体に留まることで、重篤なウイルス感染や細菌感染から守ってくれる仕組みがあります。一方、RS ウィルスは成人や年長児においては普通のカゼウィルス的一种にすぎませんが、1 歳未満のお子さんが罹患すると高率に気管支炎や肺炎を発症し、高率に入院になる疾患です。特に早産児や基礎疾患のあるお子さんは救命できないケースもあり、非常に警戒されている疾患です。

製品名 アブリスボ®

対象者 妊娠 28 週 0 日～36 週 6 日までの妊婦の方

接種方法 筋肉注射・1 回のみ

予約方法 電話・窓口

※接種後 14 日以内に出産した場合の有効性は確立していません。

※接種における副反応；注射部位の痛み、頭痛、筋肉痛等が生じることがあります。学会からの見解は以下をご覧ください。

[日本小児科学会「RS ウィルス母子免疫ワクチンに関する考え方」](#)

お子様の定期受診と一緒に母様の接種も可能ですし、もちろん母様のみの接種予約も承ります。

ご不明な点がありましたらご遠慮なくお電話ください。